

## 2008年11月25日開催 第533回 番組審議会

### ■ 出席委員

荒巻裕委員長 櫻井美幸副委員長 上田理恵子委員 神谷徹委員  
國定委員、 黒田勇委員 岸本卓也委員

### ■ 毎日放送出席者

山本会長 河内社長 田中専務 上田専務 山西常務 松島常務  
西岡ラジオ局長 三村制作局長 東編成局長 熊報道局長  
木田コンプライアンス室長 東田VOICE企画デスク

### ◆テレビ報道番組「VOICE」について

第533回番組審議会は11月25日に開かれ、テレビ報道番組「VOICE」で最近放送された、『小麦高騰の陰に巣食う天下り法人』、『誰のため？産科医療補償制度への疑問』、『“消えた年金救済”名ばかりの第三者委員会』の3本の特集について審議しました。

委員の主な意見は次の通り

- \* 『“消えた年金救済”名ばかりの第三者委員会』は、話の核になっている調査員が匿名で話していて、なおかつ1人だけで、説得力に欠いていた。
- \* 農水省なり厚労省などの中央官庁を取材する時、あるいはエリアを超えていろいろなデータを集める時に、ある種の弱さを感じる。メディア同士の境界を超える努力を今後していかないといけないと感じる。
- \* 『誰のため？産科医療補償制度への疑問』は、今後どうなったか、続編で取り上げていただきたい。
- \* 投書やメールから問題を認識して報道することは評価できるが、小さなきっかけから調べ始めるので、どうしてもサンプルが最初少ない。それをいかに広げていくかということがないと、危うい感じがする。
- \* 役人、あるいは天下り、金がむだに地面に吸い込まれている実態を非常によくあらわしている。
- \* 過剰でない説明、過剰でないコメントがいい。『産科医療補償制度への疑問』は、「意味のある制度ではあるけれども、なぜ法制化せずに民間に任せるのか」というキャスターのコメントがきいていた

\*レベルが向上している。さまざまな試練を経験、それへの反省、また長年にわたる蓄積から、そういうものを前向きの変えて、あしたへ生かしていこうという努力がされていると感じる。

◆ラジオ番組「おれは闘う老人（じじい）となる～93歳元兵士の証言」が第4回日本放送文化大賞のラジオ番組グランプリを受賞したことについてラジオ局長が、テレビ番組「映像'07 夫はなぜ死んだのか～過労死認定の厚い壁～」が第28回「地方の時代」映像祭のグランプリを受賞したことについて編成局長が、テレビ番組「金閣寺音舞台」がABU（アジア太平洋放送連合）賞を受賞したことについて番組審議会事務局長が報告しました。

◆総務省の「平成20年放送局の再免許に当たっての要請」について番組審議会事務局長が報告しました。